

令和7年度 調布市立国領小学校 学校評価報告書 (学校長 武田 美穂子)

学校の教育目標	
仲良くする子 元気な子 ◎よく考える子 (本校重点目標)	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>「認め合い、高め合い、笑顔あふれる 素敵な学校」</p> <p>主体的・対話的で深い学びの充実と個別最適化を図った学びの充実を図ることで、児童一人一人が互いを認め合う風土を育み、さらに学ぼうとする意欲を高める学校として、自他を尊重し、互いを認め合う関係から、思いやりの心を育てていく。また、保護者・地域も教育活動への参画・支援・協力を通して、共に学び、育ち合う学校づくりを推進し、国領小学校にかかわる人すべてが「認め合い、高め合い、笑顔あふれる素敵な学校」を目指す。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	<p>① 児童の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図る。合言葉は「は・あ・と」とし全校で取り組む。(話を聞く、あいさつをする、友達となかよくする)</p> <p>② 人とのかかわりを大切にした教育活動の下、「いじめをしない、させない集団づくり」を行うと共に差別や偏見をもたない人権尊重の意識を育てる。</p>	<p>① 「自ら課題を解決しようとする力」や「学びに向かう力」を身に付けさせるため、校内研究(算数科)中心に学びの実現を図る。校内での研修・研究授業を年間6回実施する。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びを作り出す授業の創造を目指すとともに、各教科において、言語活動を充実させ、自分の考えを表現する力を育成する。</p>	<p>① 児童の健康維持・体力増進への意識を高め、基本的習慣の定着を図る。運動の楽しさを実感する体力向上に向けた取り組み(チョコプラ1の実施、体育週間の充実等)を行う。</p> <p>② 国際理解教育や日本の伝統文化理解教育等、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを引き継ぐとともに、プロフェッショナルに触れる機会を一層充実する。</p>
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	<p>① 保護者アンケートにおいて「あいさつ」や「きまりを守る」項目において、肯定的評価が97%となった。</p> <p>② 「楽しく学校生活を送っている」という項目において保護者 95.5%、児童 91.4%となり肯定的評価がやや向上した。</p>	<p>① 校内における研究授業3回、全体研修を4回実施のほか、年2回管理職による授業観察、オープン授業を実施した。</p> <p>② 教科担任制ウィークを2回(2週間ずつ)実施した。児童、保護者ともに9割以上が肯定的な評価であり次年度の実施に期待が寄せられた。</p>	<p>① 保護者アンケートでは健康・体力増進に関する肯定的評価が92.4%と前年度より5%以上向上しているが、教員の意識との乖離がみられる。</p> <p>② 各種目のゲストティーチャーや国際理解教育により、人とのかかわり等に意欲を感じることができた。</p>
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度のあいさつ運動や日々の声かけにより、あいさつをしようとする児童の意識は高まってきている。あいさつについてのアンケート結果は家庭での様子も含まれることから、学校・家庭両輪での取り組みが大切である。 教科担任制ウィークの実施により、児童の学びに向かう姿勢の向上、保護者の学校教育に対する意識の向上、教員の負担軽減等に効果がみられた。 次年度以降、一層の教科担任制の推進を図るとともに、低学年の少人数指導定着のための人員確保を強くお願いしたい。 休み時間も全学年外へ出て体を動かすなど、体育週間、持久走週間、なわとび週間等チョコプラ1国領の取組に児童のアイデアや意見が取り入れられている。 次年度以降も体力向上はもちろん、その取り組みに向かう意欲、関心を高めてほしい。 		

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携の強化	5 読書活動の推進	6 個に応じた支援の推進・充実
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	<p>① コミュニティ・スクールとしての機能を発揮し、地域人材の発掘や地域と連携した教育活動(緑地化活動、学習支援、放課後事業等)を充実させるとともに、地域学校協働本部を中心に家庭・地域との連携・協力を一層進める。</p> <p>② 幼保小・小中など校種間連携を推進すると共に、学校だより(1回/月)やHP(ほぼ毎日)を活用して教育活動を適時に分かりやすく発信した。</p>	<p>① 読書活動「本のたからばこ」を充実させ、本に親しむ児童を育成する。読書週間を年間3回実施するとともに、文化講座を各学年実施する。</p> <p>② 保護者・地域人材を活用し、学習センター機能を備えた図書室の整備や、朝読書(1回/週)の時間を活用した読み聞かせ等を充実させた。</p>	<p>① 個に応じた指導・支援を、学校生活の基礎・基本の定着や自己肯定感を高める指導を行う。特別支援Co.を中心とした校内委員会を組織的に対応する。併せて個々の児童の状況に応じた指導ができる教室の整備や人材の確保も行う。</p> <p>① 支援員や地域人材による学習補助や放課後の補充学習、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境、ICT機器を活用した児童の心理解等に取り組んだ。</p>
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	<p>① 保護者アンケートでは97.8%、教員は100%と高い数値となった。学校運営協議会企画の地域・保護者をゲストティーチャーとして招いたキャリア教育の取組や地域学校協働本部による畑・花壇の整備等、コミュニティスクールとしての役割を果たすことができた。</p> <p>② 学校だより(1回/月)やHP(ほぼ毎日)を活用して教育活動を適時に分かりやすく発信した。幼稚園、保育園等との情報交換や引継ぎも充実した。</p>	<p>① 読書週間の取り組みやボランティアの読み聞かせ、ゲストティーチャーによる読み聞かせ等、読書活動を実施することができた。</p> <p>② 一人1台端末だけでなく、学習機能を備えた学校図書館での学習等も年間の指導計画に入れ、実現を図る必要がある。</p>	<p>① アンケートでは保護者93.2%、教員100%と肯定的評価が高かった。と校内委員会にSSWが加わることで外部との連携もとりやすくなり、個別対応の選択肢を広げることができた。</p> <p>② 地域学校協働本部による放課後学習の「未来塾」について感謝の意見が多く寄せられた。</p>
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールとして今年度の実践について改善を図りながら、継続できるものは継続していく。 読書週間の取り組みや校内での読み聞かせ等は実施できたが、保護者の読み聞かせや外部の文化講座等も積極的に行ってほしい。 不登校傾向の児童については、特別支援Co.のコンサルテーション機能を活用し、今後も組織的に取り組んでほしい。個に応じた様々な支援については感謝している。 		

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制を見据えた交換授業を1年生から6年生まで行い、児童理解や授業力向上につなげることができた。OJTを活用した教員向け研修では、若手教諭の育成に特化した内容を行った。 会議や事務処理等デジタル化を進めることで、放課後の時間を確保し、教材研究など日々の授業にしっかり取り組む時間が確保できた。
学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子を含め、いつみても学校全体が落ち着いている。掲示物等学年間の足並みがそろっていて、校長の学校経営方針のもと、教員同士の連携が取れているのが感じられる。 行事では全教員が協力して動いていて、気持ちがよい。施設環境の整備として、流しやトイレの改善を要望したい。今年度は地域行事にも参加していただき感謝している。

中期的な経営目標の達成状況	
1	思いやりの心や規範意識をもち、自他を尊重する児童を育成する。〔調布市教育プラン施策1〕
2	基礎基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びを創り出す児童を育成する。〔調布市教育プラン施策2-6〕
3	健康維持・体力増進のため自ら考え、判断し、実践する児童を育成する。〔調布市教育プラン施策3-10、11〕
4	安全・安心な学校、地域と共にある学校を推進する。〔調布市教育プラン施策6、5-15〕
5	読書活動を通して、児童の「豊かな心・感性」を育み、「確かな学力」の基礎を醸成する。〔調布市教育プラン施策2-9〕
6	特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的に個に応じた指導を行い、児童の自尊感情や自己肯定感を高める。〔調布市教育プラン施策4〕
人・組	<ul style="list-style-type: none"> 主幹教諭・主任教諭を中心に、組織的に教員の授業力・資質向上を図る。 教員個々が「なりたい自分」を見付け、自己のキャリアプランを明確にし、その職層に応じた学校マネジメント能力の視点の育成を図る。
次年度の重点課題	
<p>○ 「認め合い、高め合い、笑顔あふれる 素敵な学校」を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的で対話的な深い学びの充実と個別最適化を図った学びの充実を図ることで、児童一人一人が互いを認め合う風土を育み、さらに学ぼうとする意欲を高める学校として、自他を尊重し、互いを認め合う関係から、思いやりの心を育てていく。また、保護者・地域も教育活動への参画・支援・協力を通して、共に学び、育ち合う学校づくりを推進し、国領小学校にかかわる人すべてが「認め合い、高め合い、笑顔あふれる素敵な学校」を目指す。 それらの実現を目指し、本校の特色ある教育活動をさらに推進・充実するための手立てを「凛（RIN）教育」とし、学校・保護者・地域が一体となって児童の笑顔のために共通意識をもち、互いに力を出し、支え合うことのできる共同体をはぐくむ。 	